

## 第2回スタジアム整備のあり方検討委員会 会議録

日 時 平成29年8月31日(木) 午前9時30分～11時30分

場 所 県議会棟 1階 大会議室

出席者(順不同)

委員：齊藤(譲)委員、熊谷委員、岩瀬委員、小畑委員、千田委員、金委員、板橋委員、伊藤委員、高橋委員、荒井委員、相場委員、丸野内委員、松村委員、渡邊委員、齋藤(一)委員、佐々木委員、原田委員、飯坂委員 計18名

### ○会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
  - (1) 第1回検討委員会のまとめについて
  - (2) 事前調査票の各委員の主な意見について
  - (3) 検討委員会の協議の方向性について
  - (4) コンセプト(案)について
  - (5) 機能、建設主体・財源、場所等について
  - (6) 第3回目の検討委員会の予定について
  - (7) その他
- 4 閉会

### ○内容

#### 開会

県スポーツ振興課 加藤主幹

#### 県スポーツ振興課振興監あいさつ

本日は大変お忙しい中、第2回スタジアム整備のあり方検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、第1回目の検討委員会では、それぞれの委員の皆様方からたくさんのご意見をいただきました。また、事前調査票にもご協力いただき、ありがとうございました。1回目の話し合いについては、事務局で整理させていただきましたが、今後、スタジアムの新設を前提に具体的な議論を進めていくこととなります。

ブラウブリッツ秋田のJ2昇格に向けたスタジアム整備に端を発した話し合いは、秋田の抱える諸課題についてスポーツを通じて解決し、子どもの未来や健康寿命日本一へ結び付き、地域のにぎわいや活性化の起爆剤、シンボルとなるスタジアムづくりへ

と、意見がまとまっていったと受け止めております。

中間のまとめまで、本日の会を含め3回の検討委員会の開催を予定しておりますが、スタジアムの規模や機能など、より具体的に掘り下げた議論が必要となってまいります。限られた時間ではありますが、検討委員会としてあらゆる可能性を考えながら、スタジアム整備のあり方についてある程度まとまった方向性をお示しくださることを期待しております。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、あいさついたします。

### ※この後、議事にに基づき委員長が進行

#### 委員長

みなさんおはようございます。会を始める前に、前回の検討委員会の内容を確認したいと思います。第1回目の検討委員会では、委員の皆様からスタジアムの望ましい姿についての意見のほか、慎重に議論を進めるべきといった、様々なご意見をいただいております。

委員の皆さんの意見を集約したところ、「課題を整理し、スタジアム整備の議論を進めていくべきではないか」との意見が多数でありましたので、1回目の検討委員会のまとめとして、本県に適したスタジアム整備の課題を整理し、新設を前提に議論を進めていくことで、委員の皆さんからご承認をいただいたと理解しております。

本日は、前回の検討委員会のまとめを踏まえた第2回目の検討委員会となりますが、様々な課題等に対して、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは次第に基づき会を進めてまいります。事務局から資料の説明をお願いいたします。

### ※資料P1～P6について事務局が説明

#### 委員長

ありがとうございました。ただ今、事務局から第1回目の検討委員会のまとめから、検討委員会の協議の方向性までの説明がありました。今の資料の中では、第1回目の検討内容、そして事前調査の内容については委員の皆様から出されてきた内容と理解しております。今の説明に対して、ご意見、ご質問等がございましたらよろしく願いいたします。

#### 委員長

資料については事前に皆様のお手元に配付されておりますので、それを一通り目を

通しておられると思います。事務局の説明に対してご意見等がなければ、7ページのコンセプト（案）に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 全委員

異議なし

#### 委員長

それでは、7ページのコンセプト（案）について、事務局から説明をお願いします。

#### ※資料P7について事務局が説明

#### 委員長

ありがとうございました。ただ今、事務局からコンセプト（案）の説明がありました。秋田県が抱えている少子高齢化や人口流出の問題であったり、また、秋田が元気になるための地域活性化や賑わいの創出であったり、いずれのコンセプト（案）についても、スポーツを通じて様々な課題を解決するための拠点となるシンボリックなスタジアムという説明でした。

コンセプトについては、前回の検討委員会の時の皆様のご意見にもありました秋田の元気や本県の課題、また、象徴的なものなどといったキーワードを踏まえたものになっているかと思います。事務局からは5つのコンセプト（案）が示されましたが、多いとか少ないとか、あるいは、違うコンセプトの方が良いのではないかなど、ご意見があるかと思しますので、よろしくをお願いします。

#### 委員

コンセプト4の利用満足度の高いスタジアムといった部分について、これを一つのテーマとして設けていかなければならないのではないかと感じておりました。

先日もお話しましたが今の日本の国自体の考え方が、国内にあるスポーツ産業が海外と比べて出遅れてしまった。逆に言えばまだまだ成長産業であると位置付けております。

そういった背景から申し上げますと、やはり秋田にあるスポーツコンテンツを日本の中で初めてたくさんのスポーツコンテンツを、秋田が産業化に向けて発信していくという部分は、非常に良いコンセプトなのかなと感じております。

#### 委員長

他の委員の方ありませんか。今、委員から4番の利用満足度、特に秋田のスポーツコンテンツを初めて産業化に向けて進もうとしているコンセプトが良いというご意見がありましたけれども、それに関わる話でも、それ以外の話でも構いませんので、どなたか

ございませんか。

#### 委員

おそらく事務局も考えられているいろんな事を網羅されると思いますので、4番のコンセプトは必要だと思います。併せて1番の今秋田はなかなか観光を考えてもコンテンツが少なかったり、コンベンションを誘致しようと思ってもなかなか場所がありません。是非そういった形で今引っ張ってこれないものを持ってくるカードとなるコンベンションとしての機能を、必ず入れてほしいと思います。

また、駅等からある程度歩いて行くことが可能なエリアにさせていただくことによって、今みんなで力を合わせてやっている中心市街地の活性化というところに関しても、繋がりができるのではないかと考えております。

もう一つは2番になるのでしょうか。スタジアムだけではなくて、周辺地域との一体感、そちらがキーになると思います。是非、駅前とは違った形で、スポーツを中心とした新たな魅力あるエリアができることが重要だと思っております。

#### 委員

今の話と被るかも知れませんが、コンセプト1のところの地域に活力をもたらすスタジアムということで、スタジアムが活力をもたらすという書き方なんですけど、スタジアム自体が産業事例とするような、アメリカのメジャーリーグのテキサスレンジャーズなんかは、外野レフト側がオフィスビルになっていて、大胆にアウェイ側のスタンドを小さくして、それ以外はオフィスになっていてベランダから仕事をしながら試合が見られるというような、完全にスタジアム自身をビジネスエリアのような、そこは既に産業事例というようなところにするといいいんじゃないかと思えます。

今は、外部の産業をサポートするスタジアムということですが、スタジアム本体が収益を生むというくらいの、日本に今までないような強いものを目指してもいいのではないかと思います。

#### 委員

1と4の話がありましたので付け足しということで話させていただきますが、利用満足度の高いスタジアムというコンセプト4のところ、どういったことが満足度を高めることにつながるのかというところが個人的に気になりました。

今、話がありましたとおり、成長産業としてスポーツがこれから重要だと、産業として成り立つためには、あえていやなことをどうしても触れなければいけないこととして触れるとすれば、収益力のある程度確保しなければいけないと、成長産業として成り立つためには、そういうところがどうしても必要だということがあると思うんです。

そのために、たくさんの人に来てもらう、活力がもたらされることによって産業とし

て成り立っていくと、そういった側面があるという話を繰り返ししました。その時に私はスポーツを観戦する方は若い方が多いと思っているんですが、そういった方を呼び込むために何が必要かという時に、普段、私が大学生と触れ合っている感覚からすると、今時の若い方は、自分より大きな物にアイデンティティーを重ねることはなかなか難しい、俗な言葉で言うと割としらけているというところがちょっとあるような気がします。

その時に、非常に豪華で大きいスタジアムというものが、逆に若い世代にとって自分に遠い存在だということ、むしろしらけるような気持ちになってしまうことがあれば心配だなと思うところもありますし、それとは逆にほどほどの大きさかもしれないけれども、自分とブラウブリッツとファンでみんなと一緒にこれから成長していくんだと、成長の余地を残したいんだという部分がある方が、むしろ盛り上がるかもしれない、どっちなんだろうと私自身が判断できないところなので、そのあたりで、満足度を高めるにはどんなスタジアムが必要なんだろうというあたりが気になりました。

#### 委員長

今、割とコンセプトの1と4のところのご意見がありまして、先ほどの委員のお話のほか、委員からはコンベンション、あるいは新たなスタジアム周辺の新たな場所での賑わいづくりが必要なのではないか、委員からは、スタジアム自体が産業というものを生み出していくような、そういう考え方を導入してもいいのではないか、委員からは、コンセプト4の利用満足度というものが、どのようなものをもって利用満足度を高くするのか、高いスタジアムなのか多少分かりづらいという意見があったように思います。

いずれ、収益力を上げないと、スタジアム自体が成り立っていかないという部分に関しては、発言した委員の皆様は同じような気持ちなのかなと思っておりますが、まだ発言されていない委員の中で、今の4人に加えて、あるいはこういう見方もあるのではないかなどのご意見がありましたらお願いしたいと思います。

#### 委員

話が前後してしまうかもしれません。前の所で確認すべきことだったかもしれませんが、コンセプトはとても大事なことで、前回の委員の発言で、コンセプトは夢の話し合いで終わらないように具体的な流れをという話があったように思います。

この後の議題になっていけばその時で構わないのですが、前回の会の最後に、国への申請をする期限の問題であるとか、来年の6月といったある程度の時間を考えていく必要があるのではないかということがあったので、その話題が出てくるのであればその時で構わないのですが、どうなったのかを確認したうえで話をした方が良いのかと確認したく発言させていただきました。

#### 委員長

ただ今、委員から、コンセプト4に直接関わる話ではないのですが、前回の検討委員会で先進事例の話だと思いますが、国の公募とそれに対する応募のメ切等の話、それから6月までという全体スケジュールの話の中で、動きがあればこの場でお話します。

#### 振興監

現在国の動きについては、新しい情報はありませんので、今後、あった場合はその都度委員の方にお知らせしながら対応を進めてまいりたいと思っております。

#### 委員長

全体のスケジュール的な部分というのは、それも変わらないという理解で良いのでしょうか。

#### 振興監

はい。今のところ変わっておりません。

#### 委員

そうしますと、スケジュール的には変わっていないという理解で良いでしょうか。

#### 振興監

こちらの方で中間報告をとりまとめて報告書を出すといったところ、それから6月というのはブラウブリッツのJ2昇格に向けた申請の期限といった話になると思うのですが、それについても、Jリーグ側とクラブ側の交渉が、まだ進んでいないと伺っております。

この後、Jリーグ側の時限的な改修について、こういったレベルで改修してほしいといった話が出てくると、それについてはクラブ側が対応することになると思いますので、今のところ、この検討委員会のスケジュールに関しては、大きな動きについては変わっていないということになります。

#### 委員長

6月という件について委員から補足ありますか。

#### 委員

この話というのは、国に対する先進事例の申請といった部分のありきという話じゃないのかなと思っています。元々その話というのは、ぼっと出てきた話で、それがあから、ないからといった部分でスケジュールは全く変わらないのかなど。あることにこしたことはないのかなどはと思っています。あればあったでそれを活用して、もっと色濃い

調査であったり、いろんな方々のご意見が聴けるのかなと思っているので、それとはまた別の話なのかなと。

一方で、Jリーグに対してといったところで、今、事務局から時限的な話がございましたが、決してJリーグ側が時限的に何かを認めるということは前例でもございませんし、ただ一方で、Jリーグの考えとしては、日本のスポーツ産業の発展、ひいては、Jリーグの発展といった部分をしていくためには、やはり、コンセプトに書かれているようなスタジアムづくりというものが、日本中で発展、成長していかない限りは、その発展もないでしょうという考えでございますので、他県と比べてこの議論がJリーグにとって非常に秋田の議論がプラスのところ働いているというのは間違いございません。

方向性がここで示されて、知事であったり、当該市長であったりといった部分が、いつどこに、どのような形で、どの規模のものをというようなものが、いかにコミットされているかといったことがJ2ライセンスに向けて非常に大事になってくるのかなと思っておりますので、この協議会は粛々とスケジュールどおり進めていただければ、我々はそれに応じてJリーグ側に対して話をしていきたいと思っております。現に昨日、一昨日と本件に関してメールをもらってまして、現状を踏まえ報告はしており、そういった形で進んでおります。

## 委員長

今、事務局並びにJリーグの中身の部分で、委員の方からもお話をいただきましたが、この件を踏まえて新たな質問等ございますでしょうか。

## 委員

コンセプト（案）のところ、人口流出などの課題をスポーツを通じて解決するための拠点となるシンボリックなスタジアムとしていますが、方向性としてはこれで良いんですが、スポーツを通じてこういった課題を解決しきれるとは私は思っておりません。慎重論で言いますが、スポーツを通じて一助となるような、スタジアムという点では良いと思いますので、方向性としては良いんですが、解決するというのは少し大きな言い方かなと思っています。

それからコンセプトですが、絞りきるかどうかは分かりませんが、地域に活力をもたらすと月並みかも知れませんが、これは例えば2の賑わいを生むとか、多世代が集うの上位概念と言いますか、これらを包含した概念だろうと思います。ですから地域に活力をもたらすという1あたりを中心に考えて良いのではないかと思います。満足度の高いスタジアムがあるにこしたことはないのですが、どちらかという利用者側の視点なのかなという気がしております。

総合して言いますと、ある程度コンセプトというものは、ある程度のところさえ合つて、後は固めきれないで議論を進めていった方が良いのではないかと思います。この後、

財源をどうするのかといった話になっていった時に、夢を広げすぎてしまいますと収拾がつかなくなるのではないかと懸念しています。いろいろやろうとするものが大きければ大きいほど、財源的には苦しくなるわけで、そうした途端にそんな規模のものは出来ませんよという話に成りかねませんので、ある程度そこを見据えながら、ただ少なくともこういうコンセプトではいかなければいけないというぐらいのレベルで今は良いのかなという思いをしております。

## 委員長

今、委員から、大上段過ぎるテーマかなというご意見、そして、コンセプト1から5まであるんですが、今、具体的な例をいただきましたが、コンセプト1の中にコンセプト2や3がぶら下がっているのではないかと、そういう意味ではあまりコンセプトの数を増やさなくても、ある程度行間ににじみ出るような雰囲気、そのようなやり方もあるのではないかとのご意見もあつたかと思えます。

今後、報告書をまとめる際に、このコンセプトに肉付けされていくわけですので、相場委員のご意見ご提案というものは、これから前に進む段階では、一旦整理していかなければいけない部分であると思えますので、事務局としてこの件に関してご意見、あるいは、こういった考え方であるといったものがあればお願いします。

## 振興監

あくまでもこの後の具体的なスタジアムの機能であるとか、建設場所を考える時に、先ほどお話しがありましたように、夢を語るだけに終わらないために、そのための基本となるコンセプト（案）というものをお示したものでありまして、確かにコンセプト1の「地域に活力」というものは、2の「にぎわいを生む」というところとも共通する部分でありますし、利用満足度が高ければ多世代が自然に集まるであろうし、そういうスタジアムは結局オリジナリティ溢れるものでなければならぬだろうし、1から5までそれぞれ関連するところもあると思っております。

こういった事を基に話し合いながら、場合によってこの後の話合いを受けて、コンセプト（案）に修正を加えていくこと、これを基本としながら、表現をより洗練されたものや分かりやすいもの、あるいは、コンセプトそのものを5つだけではなくて、もう一つ重要なものを入れた方が良いのではないかとといったことがあれば、内容を付け加えたりして、皆さんの意見を取り入れながら、より良いものを創ってこの後の議論を進めていければと考えております。

## 委員

コンセプト4についても、利用満足度といったときに、誰が利用するのかというところをもうちょっと具体的に、お客さんが誰なのかを明確にした方が良いのかなと思いま



す。

使うのは選手というのもあるでしょうし、見に来るお客さんということもあるでしょうし、これは一般的なこれまでのスポーツ施設の考え方ですけれども、それを例えばコーポレートボックスの回収にかかるのかとか、今回商工会議所さんが事務局をスタジアムに移しますよと言ってくれたら、それだけでテナントが入るわけで、秋田大学は教室スペースとしてスタジアムの一角を全部買い取りますとか言ってくれば、それだけでストンと入るわけで、そうなると思うと誰がその場所を使うお客さんなのか、福祉施設なのか、もうちょっと誰が利用するのかということを明確にすると、市場調査でもそうなんですが、誰が使ってどれ位のお金が出てくるのかを見てみると、その場その場の収益性が見えてくると思います。

今のこの利用満足度だと単にチケットを売ったお客さんの数という話になってきますので、コンセッションのジュースや飲料、飲食を売ったという話になってきてしまうので、今度造るスタジアムは、単にサッカー場スポーツスタジアムではないレベルで考えていった方が秋田の場合は、どんどん人がいなくなって集まるのはスタジアムだよねとなっていった時に、スタジアムにみんなが日頃集まっていって行く場合に、誰が使うのかというところまで絞っていくと良いんじゃないかと思いました。

## 委員

表に出されているものは、全て意見で出されたところであると思いますし、ここに向かって行くんだということで良いと思いますが、目的は明確な方が必ず良いと思います。というのは、手法のところではいきますと、どうしてもそれは後の話で、目的じゃないと目的に対する行動だとか外してはならないところがぶれますので、目的だけは必ず明確にするというものをつくった方が良いと思います。

副産物的なもの、こんなものもあるよとかをサブテーマとしていけば良いと思うんですけども、必ずこの議論をすると、私は大変失礼かもしれませんが、大風呂敷を広げた方が良いと思うんです。それは、なぜかというところではしかスタジアムのことを議論できないわけで、ここで縮小してしまったり、テーマ、目的、コンセプトのところでは話を小さくしてしまうというのは、全く意味のない事で、必ず話のすり替えで財源をどうするんだという話になったら、これは考えられないわけなんです。

目的は必ずしっかりもって、そこに向かうためにどうするんだということがあって初めてやれることがあって、お金が出てくる話だと思いますから、そこは皆さんが納得するような、ここにいる委員の皆さんしかこの議論はできないわけで、そこはしっかりとコンセプトにあった方が良いと思います。

## 委員長

今、コンセプトのところでは様々な視点でご意見をいただいていますけれども、他に今

の話をついでながら意見がございましたらお願いしたいと思います。

## 委員

私はコンセプトの1で良いと思います。活力をもたらすという意味はスタジアムに付帯する設備が非常に洒落ているというか、進んでいるというか、そういうことは皆さん当然造る時は考えると思うんですが、やっぱり活力をもたらすというのは、前回、委員が言っていましたけれどもチームが強くなると観客も来ないと思うんですよね。

ドーム型、秋田は6か月雪の上での練習しかできない、秋田でゴルフ場とホテルと屋外競技を運営するのは大変だというのは大昔から言われてきましたけれども、そういうことのないような意味で、財源の事は非常に大きい問題ですけれども、屋根が掛かっていれば良いのかなと、そういう意味ではこの活力をもたらすというのは、弱いチームには観客も見に来ないんじゃないのかなと、ですから強くなるためには、やっぱりたくさん練習できるような意味での機能が備わっているというか、見に来る人からすれば近い方が良いとかいろいろありますけれども、そういう意味で競技団体のサッカーだけではない屋外競技を使うチームが全国一流になれるようなスタジアムを造っていただきたい。

造ってもらえれば東北には秋田のスタジアムがすごい、結果は使って練習を積んだプロでもアマチュアでもいいのですが、そういうチームが日本を引っ張れるようなチーム、そういうところに応援に行って、負け試合に応援しても活力は出ないんです。

ところが段々強くなってくると、応援団も増えますけれども、やっぱり強いチームをつくるためのスタジアムをどうやって造ったらいいのかということからすると、この、三陸、あるいは九州というところでも、エンターテイナーがいて元気を付けるというのも、よしやるぞという気持ちをもたらすためにはスポーツを通じてという意味は、良い試合をするというのは、負けても良い試合と言いますけれども、やっぱり勝てるチームをつくる、そのための練習に十分寄与できるスタジアムを造るべきではないかと思います。

## 委員

先ほど皆様から意見がありましたが、やはり利用満足度の高いスタジアムというのは、重要だと思いますし、今、ネットとかで調べてもサッカースタジアムでさえ、口コミで評価されるような時代だと思うんです。ですから、こういった委員の皆様の意見も大切だと思いますし、他のチームを見るとファンサイトを開いてサポーターの意見を集めるという手法もあるようですので、そういったのも参考にしてみるのも良いと思います。

またちょっと先の事を考えますと、2019年にはラグビーの世界カップ、2020年には東京オリンピックもありますので、開催の時には是非キャンプ地としてサッカースタジアムが立候補できるような、ちょっとオーバーかもしれませんが、世界に自慢できるようなスタジアムというのも大切なのではないかと思います。

## 委員長

委員の皆様から、ご意見をたくさんいただきましたけれども、基本的にこのコンセプトの、それぞれの中身に関しておかしいという話ではないのかなと思います。もう少しまとめた方が良く、あるいは、委員から出ましたけれどもスタジアムそのものを見に行く、観客として見たときに利用満足度が高いというだけではなくて、他の産業とか、オフィスとかも含めて、今まで考えていなかった部分も含めての満足度というものを考えなければだめなのではないかというご意見だったと思います。

そういう意味で、まとめるところはまとめなきゃだめですし、よりかみ砕かないと、この議論に加わっていない他の皆さんには非常に分かりにくいコンセプトになるのかなという感じが今しております。そういう意味で、これ自体に足し算引き算というのはないのかなというのが私の率直な受け止めなんですけれども、報告書というものがまとまっていく段階では、今みたいなコンセプトのまとめ方、あるいは、より具体的になぞるべきということを、きちっと肉付けしたうえで、やっていただきたいと、あるいは、コンセプトへの意見というものを踏まえて、報告書に具体的な文言としてあげていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

## 委員

いろいろご意見を伺いまして、このコンセプト（案）は、事務局では5つという形で皆様方の事前調査の調査票であるとか、前回の意見であるとかということで、事務局の方でまとめたわけですけれども、いろいろお話しを伺いまして、まとめるべきところはまとめて、かみ砕くところはかみ砕く、あるいは、補足として8ページにあるような形で追記をするとか、そういった形で一つの大きなコンセプトがあって、その下にその内容を補完するような追記をしていくということも考えられるのではないかと思います。

いろいろご意見を伺ってしまして、一番大事なのは、個人的な意見ですが、秋田に、そして秋田で造るからこそこんなスタジアムを造らなければならないということを、常に頭に入れておかなければならないと思います。

ただ単に秋田ですごいデカイのを造ったねとか、新しいものを入れて造ったねとか、それで終わるのではなくて、秋田だからあのようなスタジアムを造ったんだろうと、だから県民にも受け入れられるだろうし、利用度も高いんだろうと最終的に言われるスタジアムが必要なんだろうと思っています。

そういうことがやはり、コンセプトの中に脈々と流れていかないと、なかなかそういうものになっていかないのかなとも思っていますので、是非いろんなご意見をいただければと思います。先ほど委員がおっしゃっていましたがビジネスエリアとしてと、どうしても行政で造ると、その辺のマーケティングと言いますか、その点は不得手でございまして、その辺を補完するために、どういった形で、どういった話し合いをしていかなければならないのか、そういうことも併せていろいろアドバイスをいただければ有り難い

と感じました。

#### 委員長

第1回目でも委員がおっしゃっていましたが、今日も委員がおっしゃっていましたが、コンセプトというものが、委員もそうですけれども、コンセプトがはっきりしないで議論はなかなか進まないだろうと、そういうところで結構このコンセプトに関して、皆様から様々なご意見をいただいた事は良かったのかなと思います。

これからコンセプトの話、今言ったような整理で、皆さん、委員の皆様が了解だというような話だとすれば、これからそういう形で、繰り返しになりますが事務局の方には、とりまとめていただきたいと思います。それで、今のコンセプトを踏まえて、委員の皆さんの頭の中にはこういう事なんだなというのが、大体、一通り了解したものがあろうかと思いますが、それを踏まえまして次の9ページ以降になりますが、機能、事業主体・財源、場所等こういうものの意見をいただくという方向に進んでもよろしいでしょうか。

#### 全委員

異議なし

#### 委員長

そうすればご意見をいただきたいと思います。事前調査票のご意見と同じ内容の場合もあろうかと思いますが、また改めて、また付け加えてというご意見もあろうかと思いますが、よろしく願いいたします。

ここには、1の機能から4の運営主体までありますけれども、これから当初予定していた時間、終わりの時間まで1時間30分程度しかないんですけれども、最終の4番まで行けないかもしれませんけれども、極力、それぞれの1番から4番まで進めていくということで、ご意見をいただきたいと思います。仮に時間的な問題がありまして、3番で終わり2番で終わった場合には、次回に持ち越しということになりますけれども、ご了解いただきたいと思います。

#### 委員長

最初に、1の機能についてこの部分のご意見をお願いします。事務局としては皆さんから均等に話をもらった方が良いというようにお考えですか。

#### 振興監

できれば皆様からいただければ有り難いと思っております。

## 委員

概ねさっきのコンセプトで皆さんが良いという了解の基で、5つありましたけれども、その上での議論ですよ。別ではないですよ。

## 委員長

あくまでもあのコンセプトが、結局そのまとめるべきところはまとめたり、かみ砕くべきところはかみ砕くべきだろうという意見はあるんですけども、全体としてテーマなり、5つのコンセプトの考え方を了とした上での、これからの議論になります。

そうすれば、この1番目から4番目まで、皆さん調査票等でお伺いしているんですけども、改めて、調査票どおりであればそんなにかもしませんが、付け足すこと等あればお伺いしたいと思いますので、委員の方から順に反時計回りでお願いします。

## 委員

1番の機能をどうするか1規模・仕様、2付加機能についてですが、私は今頑張っているブラウブリッツの選手たちのためにも、できるだけ早いスタジアムの設置を望んでおります。

そのためにいろいろ予算的な事もあると思いますので、とりあえず1万人収容規模、ただし、J1昇格を見据えた5千人増設可能の基礎を造っていただきたいと思っております。それから、仕様としまして、前回の検討委員会の時、話をさせていただきましたが、できれば北国の条件等を踏まえましてドーム型をお願いしたいと、この件に関しましては、前回もお話しましたがけれども日本サッカー協会も大変な思いを寄せております。

付加機能といたしましては、先日発表されました小中学校の全国の学力テスト1位、それに伴ってスポーツでも小中学生が1位になれるような、そういう環境を将来の子どものたちのためにも、ましてや少子高齢化ですので、スポーツを通じて日本一になれるような体制をつくっていただければと思います。

## 委員

難しいのはですね、私が一委員としての立場なのか、それともブラウブリッツの代表としての立場なのかという部分で難しい話なんですけど、まずは規模の方からお話しさせていただきますと、私はエンターテインメント性というのは欠かせないのかなと思っております。やるんだったら1万5千人でJ1を目指せる規模じゃないとだめだろうというふうに、たくさんの方からお話を受けていますけれども、私の考えは少し否定的でして、今の観客の動員数が大体2,500人、昨年でいうと平均観客動員数です。

何とか我々としては、来年のJ2にチャレンジできる時には、3,500人くらいを目指して、J2に上がった際には5,000人であったり、7,000人が相手によっては10,000人規模になればいいと思っている中で、じゃあ果たして、15,00

0人の中に7,000人が入ったとしても、半分は空いているわけですよね。半分が空いている中で、どう産業を発展させていくかと考えると非常に難しい話になってくるのかなと。やはり満員というキーワードが必要なのかなと思う中で、人口規模等々を踏まえて考えてもあまり無理はしない方がいいのかなと思っています。

一方で経営的な事で話をさせていただきますと、J1の平均営業収益が32億円くらいです。J2でいくと13億円になります。我々の昨年の平均が2.9億円になります。そう考えますと、事業計画を書いてもJ2で我々が築けるのは7.5億円程度が妥当なのかなと思っている中で、7.5億でJ2でどれくらいJ1を目指せる規模になれるのかなと考えると、そんなに簡単には32億の平均を持つJ1リーグに上られるクラブは3年、5年ではできるものではないのかなと思っています。

逆に長い時間をかけて、最低でも5年、10年といったスパンの中でJ1を目指していく。もちろんJ1は絶対目指します。日本の総人口がどんどん減っていく中で考えたら、Jリーグに対しても話していることなんですけど、これからは量よりも質だろうと。見る環境、屋根であったり、先ほど利便性って何なんだという話がありましたが、利便性というのはいわゆるスタジアム機能といった部分の先進性であったり、アクセスであったり、家族でも安心して来られるものであったり、そういったものが重要なのではないのかなと思っていますので、委員からもございましたとおり、増設ができるような設計というのも無きにしてもあらずかと思っている次第であります。

仕様についても今お話をしたとおりでございますけれども、最低でも、今、あきぎんスタジアムは、Jリーグの観戦ルール上では、雨が降っても傘は差さないでくださいというようなことが起きております。チケットを購入いただいている方々に雨が降っても傘を差さないでずぶ濡れになって見てくださいというのは、これは完全におかしい部分なのかなと思っていますので、最低でも秋田でいえば雨がしのげ雪がしのげ、欲を言えばヨーロッパのように例えば椅子に暖かいシートが入っていたりだとか、そんなことも必要なかなと思っていますので、いろんな事を考えていかなければならないのかなと思っています。

付加機能というのは、結局最初の第1回目でお話ししたとおり、これはブラウブリッツ秋田のためではないといった部分です。そう考えるとやはりこのコンセプトにありますとおり、やはり秋田の活力になるようなものにならなければいけないと、じゃあそこからの逆算からいうと、多機能でもあり、複合的でもあり、多世代の方々ができるようなものを付けていかなければならないのかなと思っています。集計結果を見ますと、そういったものが結構出ているのではないのかなと思いますので、ここで具体的には触れないでいて、そこの逆算から付加機能を付けるということと話させていただきました。

## 委員

後援会でありますので委員がおっしゃったところにほぼ同じでありますけれども、先ほども言いましたけれども、どうしても、委員もおっしゃったように、具体的なテーマの中で、こうなったらこうなるというような事が示されないと、言いづらいところがあるんですが、まずは基本的にJ2、J1というところもありますけれども、どんな企業を集められるのかとか、そうなる規模はものすごく幅広く議論の余地があると思いますので、私も正直、明確にはこういうものがあつたら良いというのはございませんけれども、基本的には大きければ、間違いなく先ほど議論をしたものが果たせると思いますし、委員からもありましたけれども、コンベンションとか、様々な副産物的な経済効果が生まれるだろうと思っております。

全て多面的、あるいは複雑で多目的な、多面的な課題を抱えている、そういったものを解決していくとなると、付加機能についても間違いなくスポーツだけではなく、他の要素も必要だろうというふうに考えております。

## 委員

規模は先ほど委員が言っていましたように、4ページにもありますが、J1スペックJ1昇格条件の15,000人をクリアできるように、増設であれば増設、途中からそれができるのであればそれで良いのしょうけれども、そういうのを展望しなければ、途中で直すのは大変なのかなと思います。

後は何とかドーム型ができれば良いのではないのかなと。後は、付加機能とはちょっとずれますけれども、相撲の春巡業ございますね。今は体育館でやっているようですが、秋田市でやる場合はそこでやれるように、いろいろすりあがりの土俵だとか、せつかくですから揃えた方が良いのではないかと思います。

## 委員

サッカー関係者は一番最初に話したから話しやすいと思うが、まずはいつまでに欲しいか。いつまで待ってもいいのか。この会議は4回と思っていたが、来年も開催するようなので、雪国に造るのであればドーム型。東北で初めてこういうドーム良いと思う。お金は凄くかかると思う。前回私はお金の事はさて置きと話したが、委員が言ったように全部なんかはやれないと思う。では何をやったらいいのか。サッカー場を欲しいのですよね。

ではそれをどうやって造るのか。そこをもう少し集約しないと。私は民間で大きな商売はしていないが、最初にやることは予算だ。予算がこれくらいあるからどういうものができるか。理想的な事を言っていれば、正直行ってそう簡単にはJ1には昇格できないよ。今ノーザンブレッツもJ3という感じになる。名前は違うが。トップリーグで優勝するなんて夢の夢ですよ。だけど、夢をもってやっている若い人がいるから私ら年寄りが応援するんだけど。そんなに時間はないはず。あまり理想的な事を言ってもでき

ないと思うので。でも、ドームを造るのは最高だと思うよ東北で最初に。そこまでいけるか、予算の問題もあるから。

15,000人規模のスタジアムともあるけれども、陸上競技場でラグビー協会が招待試合をやっているけれども、一番入った時でも7,000人。ケンブリッジとオックスフォードの連合チームと釜石が全盛期の頃、警備が付くくらい初めて。松尾選手を車に乗せるまで警備を付けた。その時でも7,000人。もっと正直に言えば、それでも多めと思う。それくらい当時の日本一のチームとオックスフォードのあれぐらいのチームを呼んでやっても、7,000人くらいであった。

だから15,000人を呼ぶのは。でも今造るとすればジレンマがあって。どうせ造るのであればドーム型を造って委員が言う複合的なものをやればいいんだけど。現実的にできるかできないかによって待つのか。そうなれば来年も快進撃が続くのかとなれば、それも待ってられないのよね。選手だって上手くなって強くなれば、上に行きたいとプロであれば当然、そういう欲望がなければやれない。今年はここでやるけれども、いずれ成長すれば上に行きたいと思う選手でなければできない。この次の会議の時に、ここまではここまでというものを絞って。サッカーはここまでならば頑張ると。お役人はきれいに書かなければいけないからコンセプトも増えるけれど、どんどん絞って。サッカー場を造るために今彼らが苦勞していることを忘れないでいかないと、なかなかできないと思う。

## 委員

2つほど問題あると思うんです。スポーツ庁では、大都市ではプロスポーツを盛んにして経済の活性化を招くと、小都市では総合型を活性化させて、地域の活性化を目指していくという話で進められているということで、去年、東京で研修会があった時に、スポーツ庁の担当者から話があった。

今、秋田の場合は、大都市でもないし、小都市でもない中都市みたいな感じで、中途半端な位置にいると思うんです。中途半端なところで中途半端な物を作っても容易でないと思うんです。やはり身の丈にあったような感じで、5,000人でだめだとすれば、10,000人でなければクリアできないとすれば、やはり10,000という感じになると思うんです。

ただ、これを造ったから黒字にできるかといえば黒字にできないというのがはっきりしていると思うんです。その時に年間を通して、どういう風な物の中に入れていくかという事で、収入の切れ目がないような施設づくりをしていかなければ、それが一番大事だと思います。それから試合をやった時に、どれくらい集客して、そしてそこにどれくらいお金を落としてくれるのかということを、ある程度見通しを付けなければ、この事業というのは大変だと思う。ただし、県民の感情として、サッカースタジアムだけにお金を出すというのは、やはり、ちょっと無理ではないのかなと。そういう感じがします。



## 委員

第1回の時も申し上げたんですけれども、秋田の将来を見据えてということと、このきっかけはブラウブリッツさんのJリーグという両面があるということをお話させていただいたんですが、本日、コンセプトを見ましてコンセプトに特に異論はありません。議論するにはこれくらいの幅で、こういうところからというのはありかと思えます。

ただ、今、規模と仕様、付加機能ということですので、その点について申し上げさせていただければ、コンセプトは広く取る中でも、スタートといいますか外してはいけないのは、Jリーグ基準というものを意識したものにしなければいけないというのが、この議論のスタートにあったというのを忘れてはいけないのかなと、意識しなければいけないというのが悩ましいところです。

そうしますと、やはりJリーグの事を意識すると、コンセプトの1、2、3あたりに、Jリーグの使い方や効果というのが既にコンセプトに入ってくる、その中に含まれることとなりますので、コンセプト全体は了承しながらも、規模と言われればJリーグ基準をベースに考えるのを、外してはいけないということになるのだと思えます。ですので、フィールドの規模はJリーグ基準を意識したものになると思えます。

ただし、J2J1というのがありますので、先ほど委員がおっしゃったように、重複するというか、後で増築なのかそういう段階はしっかり意識しなければいけないと思えます。付加機能については、今、具体的に申し上げるものではありませんが、こういう主目的、何のためのというのを整理したうえで必要な付加機能、秋田のオリジナリティといったところを、どうやっていつて収支に繋げるか、おのずと後で議論を深めていけば付いてくるのかなと思えます。

## 委員

規模、仕様ということでもありますけれども、先ほど秋田市さんからお話がありましたように、この話の原点はJ2という目的があります。そういった観点から考えますと、Jリーグの基準を満たすものということで、先ほどJ1までというお話がありましたが、そういった部分も視野に入れながら検討していくのも一つの方法だと思いますけれども、まずはJ2をクリアできるような仕様にしていければと考えております。

付加機能につきましては、地域の賑わいなど、そういったものを活用しようというコンセプトもございます。そういったところの内容が賑わいに繋がっていくのか、そういった内容がまだ未確定でありますので、それに見合った形の付加機能というものが当然必要になってくると考えております。

## 委員

機能をどうするのかについてですが、規模についてはJ2基準は最低限。将来的な事

を考えますと J 1 規格にも改築できるような設計を入れるべきと考えております。私の認識としましては、この検討会は元々、J 2 規格のスタジアムを造りましょうというところから始まったと認識しております。そういうこともありまして、にかほ市ですけれども、ブラウブリッツさんのホームタウンということで、この会にお声掛けいただいたものと認識しております。

コンセプトは良い考え方なんですけれども、その中でいきますとよーいどんの J 2 規格という言葉が全然見えてきませんので、新しいスタジアムを造っても、J 2 規格なしのスタジアムも良いような捉え方に成りかねないと思いますので、せめてこの機能については、最低限 J 2 規格という仕様は謳った方が良いと考えております。

#### 委員

規模・仕様については、皆さんおっしゃるとおり最低でも J 2 基準。これは基本的に担保しなければいけないと考えています。付加機能については、皆さんにある程度ご理解いただいたコンセプト案を踏まえて考えると、基本的に細かく何が良いというのは、いろいろありますけれども、この場で細かいものをというよりも、冬場にドームになるか、ならないかは別にしても、冬場でも人が集まるような、集えるようなスタジアム。また、子どもにも高齢者にも優しいスタジアムという機能。是非そういったものがあればと考えております。

#### 委員

規模に関しては先ほど委員がおっしゃったとおりで、いきなり 15,000 人というのは現実的に厳しいと思いますので、やはり段階的に踏んでいくのが良いのかなと思います。

仕様に関してですが、冬の事を考えますとやはりドーム型というのがあるんですが、私はやっぱり夏とかは野外というか外でやっても気持ちが良いのかなと思いますので、ちょっとお金がかかるかもしれないのですが、開閉式の屋根なんかはどうなのかなと思っております。

付加機能については、スタジアム建設はビジネスだと思いますので、建設しても赤字を出してはいけないと思いますので、いかにサッカーの日以外にお金を落としてもらえるかというのが大切かと思います。先ほど、先生もお話していましたが、オフィスに会社に入ってもらうだとか、会議室があつてこういう会議室がありますからいかがですかとかといった不動産収入であったり、後は、観戦の時にせつかく秋田に日本酒という強みがありますので、気軽にお酒を飲みながら、そういったこともアピールできるようなレストラン機能といったことも、個人的には有りなのかなと思います。

#### 委員

先ほど委員のお話を聞いて、やっぱり確かにスポーツ施設なので秋田はスポーツ立県というのがキーになる。チームが強いのもそうですし、今、なかなか秋田の子どももの環境、野球なんかでもなかなか上に行けないというのも、少子化の問題とかいろいろあると思いますので、是非そうしたスポーツの諸課題を解決するところが、まず根っこになるのかなと思っています。秋田に行けば練習場などの様々な環境があって子どものチャンスが広がるということで引っ越してくる方が増えれば、人口も増えると思います。

まずスポーツを大前提に考えるべきだと思います。その上で、財源のところにかかってしまいますが、造ったお金、いずれ返していくお金なのか、運営は開店だけしていれば良いのかによっても変わってくると思うんですが。

付加機能としては、まずお金を稼げるものを造りましょうという考えと、もう一つはせっかく造るのでこれをうまく利用して問題解決してしまおうというものだと思います。ですから、施設をオープン、統合する話であったり、コンベンション等々新しく機能を増やすのかなどと考えております。

ただ一つ気になるのが、民間企業との関係、またこれ変なものを造って、第三セクター的になってしまったりとかしてしまうと、今無くしているものを、また新たに作ってしまうとなると難しいかなと。このスタジアムは黒字になりました。でも回りの会社は潰れてしまいましたでは意味がないと思うんですね。県がこれだけ関わるのであれば、逆に多少ランニングで赤字であって税金が使われることがあったとしても、代わりに地域全体が活性化して税収が増えるというのであれば、私はそれは有りだと思います。

あまりスタジアムだけの収支に捉われてしまうと、結果として県全体のマイナスになるのかなと、そういった関係も一つ考えながらと考えております。

最後ダブリますけれども、付加機能に関しては付けることによって、利益が増えるのか、県の問題が解決できるのか、それに関わる建設コスト、ランニングがどう増えるのか、計算だと思うので足したり引いたりして考えていって、根っこはスポーツ施設としての機能というところがベースだと思っています。それをやるにはおそらくドーム型にするというのが必要になると思っています。

## 委員

規模ですけれども、これは先程からいろいろお話が出ているように、最初の15,000人という規模は大きいのかなと思いますので、段階的にJ2をまず狙ってその規模で進めていくといいのではないのかなと思います。そして仕様ですけれども、やっぱり雨が降ったりすると、見に行く側からすると雨だから止めようかという気にもなるころがあるので、できれば晴れの日でも、真夏だと日差しが照りすぎて疲れてしまうということもあるので、そういうことからするとドーム型の方が人を呼べる一つの強みになるのかなと思っています。

そしてまたスカイドームで1回夏場にサッカーの試合を見たことがあるんですが、や

はり日影というのはとても見やすいですし、選手側からしても多分やりやすいのではないのかなと思っております。付加機能としては、質の良いスタジアムもあるというお話がありましたけれども、一つ一つ質が良ければ人も来やすくなるのではないのかなと思っております。それがどういうものなのかというのは、またいろいろと情報を収集してつくっていくことだと思いますけれども、規模と仕様に関しては、申し上げたことが私の考えであります。

## 委員

規模でございますが、Jリーグ基準を満たすものは必須なんだろうと思います。ただ、これよく分かりませんが、仮設の部分があってもクリアできるものなのかどうか。実は一昨日、釜石のワールドカップ用のスタジアムの話聞いたのですが、常設の部分で6千ちょっと、仮設が9千くらい、トータルで16,000くらいの規模のものを考えているようなんです。

そういった対応でクリアできるんだとすれば、そういったことも考えても良いのではないのかなと思います。いずれ、Jリーグ基準をクリアできるようなものでなければ意味がないだろうなというのは私も同じです。

仕様ですが、屋根付きという話もあるんですが、今、Jリーグの期間は2月末から11月中旬くらいまでですね。それが期間が移るという話もあったりしていますので、冬期間、雪の降る期間にもあるのだということだとすれば、ドーム型というのも念頭に入れなければいけないのかもしれないかもしれません。そうすると維持管理費の面から大変になって、運営費はどうなるんだろうということまで考えていくと、厳しいのではないかと。理想はドーム型なんでしょうけれども。そこは財源との相談もあるんだろうなと思います。

付加機能については、その他のJ以外の使用頻度といいますか、あるいはこういうものにも使いたいという利用頻度がどれくらいあるのか。それを踏まえてからでないと、なかなかこういう機能もあった方がよいよねとなったとしても、滅多に使われないようなもののために付加機能を付けるのはいかがかと思うので、そこは需要と言いますか、それを見据えながらやっていかなければいけないのではないかと考えております。

## 委員

付け足すことがあるわけではないので、コメント的な話にさせていただきますが、規模・仕様のところで、ドーム型が望ましいというところは私もその通りだと思うんですが、ただ、やはり予算的にどれだけかかるのか、建設費、維持・管理費がどれくらいかかるのかということが分からない以上、議論のしようがないので、もし、本格的にドーム型を検討するというのであれば、それを分かりやすく出していただいて検討することになるのかなと個人的には思います。

規模についても、委員からお話がありましたように、大き過ぎて空席が目立つようで

あれば気になるということですが、私自身も素朴な感覚として建物があって回りに人が居ないというのは避けたいなど。そこで付加機能が関わってくるとすれば、とにかくスタジアムの周辺に、とりあえず何か用事があって人に来てもらうと。失礼かもしれませんがついでにサッカーも見ていくという来やすさも必要なのかなと思います。回りの部分の方が大事になってくるのかなという気持ちがあります。

委員が言っておられましたビジネスエリアに来てもらうこともあるでしょうし、これは夢を語ることになってしまうかもしれませんが、エリアで毎日お金を使えるという方ばかりではないでしょうから、無料で子育て世代から高齢者までが使えるような運動公園的なものがあれば、更に人が集まるということがあるかも知れませんが、これは夢という話になるかと思います。

## 委員

規模・仕様については、Jリーグクラブライセンスにのっとって造るべきだと思います。秋田で僕が今までこういったスタジアム・アリーナの建設に関わってきて思うのは、今回だからこそやってほしいのは、一体型で造るという発想を取っ払ってもいいのかなと思っています。

つまり、サッカー場は、メイン、バック、ゴール裏が2つあるんです。4つの建物で成り立っているんですね。ヨーロッパなんかを見ると、順々に建て直したりしています。メイン・バックを5,000、5,000、ゴール裏ホームを3,000で13,000。J2上がる時にアウェイゴール裏を2,000追加しますよということで、段階的にやってもいいのかなと思います。

最低限、僕も屋根がかかる方が、秋田ですので良いと思っていますので、できれば蛇腹で閉まって夏は開くくらいの屋根がいいのかなという感じはします。付加機能に関して言うと、まさしくどこが出すのか。今、筑波大学でアリーナを造る担当をやっていますけれども、本当に民間でいけるのであれば、出資を募るという意味であれば、まさしくブラウブリッツさんも出資していただくSPC（特別目的会社）をつくるみたいなどころでいくべきだし、本当にこれは県営施設ですよといって県が全部出すのであれば、県としてのもっと公共的な付加機能が必要になってきますし、やはりこれは建設場所、運営主体、それから財源によって付加機能は大きく変わるのかなと思います。

ちなみにアリーナを造ってよく分かるのは、イベント、コンサートは今グローバル化するということと、系列化してしまっていて、例えばある歌手を呼ぼうとしても、そのグループの基準に合っていないと来てくれないんですね。これはまさしくJリーグと一緒に状態、例えばセキュリティの問題、チケットの問題も全てクリアしないとサザンオールスターズは来ませんよというようなことなので、実は設計段階からエイベックスさん、アミューズさん、ソニーミュージックさんなどが入らないと、そもそもこのスタジアムではコンサートはしませんねというのが今の現状です。

そういう意味ではこういったところに声をかけたうえで、誰が使うのか、その人たちには事前に声をかけて市場調査をして、出資させて、マーケットサウンディングをして、細かい作業で結果的にどれくらいのお金がかかるかで機能を抑える。建設順を考えるようにしないといけないのかなと思います。ただ夢としては屋根が付いて開いて、最終的にはJ1で15,000人をゴールとしていくような夢を持っておくべきだなとは思いますが。

## 委員

規模については、Jリーグの基準に従って造らなければこの会議の意味がないと思いますので、ここは前提にすべきだと思います。ただその一方で、Jリーグの基準、規格が日本全国に広がっていくということは、サッカー界からすればそれは理想的なことではあるんだけど、それができる地元の場所からすると、やはりそういうスタジアムはある種の違和感というか、よそよそしさをもって、そこに建つことになるんだと思います。

鹿島のスタジアムも多分そうだと思います。そうだったと言った方が良いかもしれませんが、そうだったと思います。愛知県のトヨタのスタジアムも、相当なよそよそしさをもって最初はそこに建ったんだと思うんですね。秋田はどこに建つのかまだ分からないんですけど、大事なのはそういったよそよそしさは、あぁいった建物なので、持つものだと思うので、よそよそしさをいかにして順次取り除いていくかが大事だと思います。

そのためには、やはりブラウブリッツさんのために造るというわけではないけれども、そこでサッカーの試合が楽しめて多くの県民、周りの住民の方に、見られていくということが一つだと思いますし、もう一方で、スポーツ推進審議会の中身にも関係してきますが、秋田県スポーツ推進計画の中でのスタジアムの改修とか整備は、トップスポーツのところではなくて、住民主体のスポーツを支える環境整備といった中でこういったスタジアム整備の事が記載されていることを考えると、あるいは県の方にこういったスタジアムを造れといったことに対して、高齢化とか人口減少とか大きな問題があるだろうという声は、当然そういう声はあるんだろうと思います。

そういったことに応えるためにも、それとは異なる違ったよそよそしさを取り除く方法が、必要なのではないかと考えていまして、具体的な話はなかなかできないのですが、少なくともスタジアム単体でやるということではなくて、そこを中心にしていろんな政策とか、具体的な取組が広がっていくような方法が良いと思いますし、委員の方からお話があったと思うのですが、また、スポーツにこんな解決ができるなんて思わないという意見があったと思うのですが、私もスポーツがそんな大きな力を持っているとは思っていないので、やはりスポーツだけで何かをするということはないということを見ると、そのスタジアムがスポーツ以外の、今いろいろな委員からお話があったよう

な、スポーツ以外の目的で集えるような場所にすることによって、こういったより大きな目的の達成が見えてくるのかなというように考えます。

## 委員長

ありがとうございました。様々な意見があったわけですが、規模に関しては、今、委員の皆様のご意見としてJリーグのクラブライセンスを満たさなければ、あまり意味のない話ですよというところが、皆さんの共通項かなと思います。そのやり方として当初J2からいって、J1に増設、改築することを見据えた設計にするのか、しないのかといった話はあるのでしょうかけれども、いずれクラブライセンスを満たす規模でなければ、こういう話をしていく意味がないということだと思います。

それから付加機能に関して言いますと、これもまたいろいろなご意見はありますけれども、これからのテーマに出てくるんですけれども、運営をどうするのかとか、誰がどう使うのかとか、どうやったらお金を稼ぐことができるものを引っ張ってきて、それを引っ張ってきた結果として、どういう付加機能が必要かというような話は、これから先の話になるのではないかと、そういう事だったのではないかと考えています。

今後、事務局の方にまとめてもらう話になるんですけども、そのドーム一つの話も、ドームは無いよりは当然あった方が良いでしょうけれども、そのあり方一つでも、同じドームでも開閉機能があった方が良いでしょうというお考えの方もいますし、これから付加機能として、誰がどういう利用をするのかによって、固定式のドームであったり、そもそもドームってどうなんだという話にもきつくなってきますので、その付加機能に関しては、なかなかここで集約できたという認識にはならないんですけれども、いずれ今日の各委員のご意見をもう一度整理してもらって、また改めて各委員の方に投げ返すような形になろうかと思っています。

なかなかまとめきれないまま進んでいくんですけれども、2つ目の事業主体、財源をどうするのかに関しても、同じようにこの中身に沿って各委員の皆様から改めてご意見を伺いたいと思います。

## 委員

事業主体、財源についてですが、専門的なところは私も分からないところもありますし、また、委員の皆様から出された事前の意見を伺って、いろんなやり方があるんだなということが分かりました。これについては詳しい方々にいろんな案を出していただいて、伺えればと思っています。できることであるならば、そういった財源という大事な一番のキーになってくる場所ですので、財源をどうするかというところが、多くのサポーターという話がありましたけれども、県民というと抽象的になってしまうのですが、いろんな方にそういったものを投げかけて、お金をどうするかというものが、なるべく集めるのか、多くの方に知ってもらうことが重要でないのかなと考えております。

## 委員

私も秋田に住んでいないので秋田の財界の力がどれだけあるか分からないのですけれども、基本的には行政直轄ではなくて、民間コンセッション型にして、株式会社で産業化を進めるという意識の通った図式にすべきだと思います。あと、2、3、4含めてとにかくやれるものは全部やろうというぐらい、がめつくいくような組織でなければだめで、是非そのような組織になってほしいと思いますし、ラグビーさんも、ブラウブリッツさんも是非出資してくださいと、自分も責任を負っていくべきであると思います。

## 委員

私も詳しくないので深い話にはできないのですが、例えば目安として今回100億円だとかという話が新聞等に出ていますので、その金額で考えるとすれば、100億円を県だとか市だとか公的な負担だけで払うということになるのは、なかなか理解を得るのは難しいのではないかと個人的には感覚として思います。

その中で、国庫補助だとか、助成だとかがあるかもしれませんが、もし返さなければいけないお金だとすれば、根っことして変わらないので、どう集めるかというときに、利益を出して行って、民間ベースの考え方、民間がどれほど役割を果たすかは別にしても、考え方はベースになければならないのかなと思っております。募金とか寄附金、ふるさと納税だとかの話もあるかと思いますが、ふるさと納税の金額でいえば、平成27年度のTOP20の中で、東北の中では山形県の天童市なんかの3つの市が入っていますが、約30億円くらいの規模ということで、それほど大きい額が集まる訳ではないと、TOP20でもそのレベルですし、全部をサッカースタジアムの維持費に使える、建設費に使えるという話でもないと思うので、苦勞する話なのかなと思います。

## 委員

事業主体、財源ですけれども、2通りあると思うんですが、今話のあった民間がやるという場合、ただ、その場合に国庫補助が該当になるものがあるのか、ないのか、あれば使えば良いのですが、少なくとも民間で半分くらい事業費を捻出できないと、民間主導というのは多分無理だと思うんです。残りは県でも市町村でもいいから、補助金、あるいは国庫補助、募金などでやるということができれば、それは可能だと思うんですが、それが難しいのであれば行政に頼るしかないんだろうなと思います。

その際には、募金、寄附金、それから使えるのであれば国庫補助、更には自治体がやるとなればブラウブリッツさんの優先的使用ということ、実質的には日程調整があるのでしょうけれども、優先という話にはならないので、基本は同等になりながら日程調整しながら使わせていく形なんだろうと思いますけれども、もしかするとそれが一番現実味があるのかなという思いはあります。



その際には、県なりが事業主体になって関係市町村からもある程度の負担をいただく、あるいは、関係市町村の負担金そのものを、それから残った財源の足りない財源を一般財源ではなく地方債に求める。そういったことが多分一番現実的ではないのかなと思っております。

## 委員

財源の方に関しては詳しくないので何とも言えないのですが、やはりスタジアムができる地域の市町村の負担もありますでしょうし、また県の負担にもなってくると思います。ただ、そこばかりに頼るばかりではなく、民間主導というところから考えると、いろんな企業からの募金や出資を募ったり、そして市民と一緒に造りあげるという意味であれば、市民とも一緒に募金活動を行ったりというような機運を高めていく一つのやり方にもなるのではないかと思います。

## 委員

事業主体に関しては民間、NPOといった方が、いろんなアイデアを出して多分何を造っても事業を使っていけないと維持していくのは難しいと思いますので、そういった形の方がやりやすいのではないかと思います。お金に関してはいろんなご意見があるとおりで、かき集めるしかないと思います。

ただ一つあまり詳しくはないんですが、例えば秋田県のためにキャッシュは持っていないんだけど、身体で払うよという方がよくいらっしゃるんで、工事費は集めるのではなくてボランティアで作業員で入ってくれとか、わざわざ日本のお金を通さなくても秋田県民の力でできる部分があれば、かなり予算は下げられるのかなと、これはいろんな安全の問題とか全く分からないので何とも言えませんが、できるのであれば本当にみんな、今委員がおっしゃっていましたが、みんなが参加することによって造る段階から県民が手作りで、本当に思いを込めたものだと意識を高める意味からもいろんな手法は考えても良いのかなと思います。

## 委員

財源に関してはやはり行政が主体なのではないのかなと思います。やはりそれだけでは厳しいので先ほどから皆さんがおっしゃっているとおり、企業からの募金を募るとか、そういったことがあると思います。

後は、長野のパルセイロがスタジアムの改修の時には、国から38億円の補助金が出たというのを記事で見ましたので、それがどういった事が出たのか分からないのですが、そういった国の補助、後は建設にあたっては秋田のものをふんだんに使うということで、秋田杉をどこかで使えば、多分秋田杉で国からの補助金が多分出ると思いますので、そういったいろんな手法を考えていければいいのかなと思います。

## 委員

民間活力の導入というのは絶対必要だろうと考えております。ただ、その手法について行政が働きかけてやるべきものなのか、それとも、民間側から行政側に逆にこういう風にやろうよと言っていただけなのかということ、そこが今後どうなっていくのか、どういう風に仕掛けていったらいいのかということ、非常に悩ましいところだなと思っておりますけれども、もうそろそろ結果が出るか分からないのですが、岩手県と盛岡市で盛岡に野球場を造るということで、その建設費に関して民間活力の導入をどのように考えたらいいかということで、コンサルで委託調査を出したところ、確か7社から入札申込みがあったということで、今、多分やっているんだろうなと思います。

ということは、地方都市であっても民間活力導入に関してそれだけのコンサルが手を挙げるということは、それなりの可能性も感じているところもあるのかなと思いますので、岩手県側の方からも情報を得ながら、もしこの検討委員会をやっている間に結果として出るのであれば情報提供していければと思います。

## 委員

事業主体に関しましては、行政がやるという考え方は当然あるかと思っておりますけれども、ここで勝手にお金を出しますとは絶対言えない立場ですので、それはご了承ください。ただ、行政がやるとしますと手続き関係、予算確保、議会関係がありますので時間がかかります。スピード感を持ってやるとすれば、民間の方が間違いなく早いです。そのことも皆さんの中で、頭の中に入れておいてもらえれば嬉しいと思います。

## 委員

事業主体という考え方でございますけれども、県内で一番のスタジアムを建設しようという話になっております。サッカーができる県内唯一のスタジアムということになっておりますので、事業主体としては秋田県が行っていくべきではないのかなと考えております。

財源につきましては、補助事業の活用や助成金など、そういったものもございますし、当然利用される受益者の方々、また、先ほどからお話しのありました県民の手作りというものを考えますと、寄付金そういった民間の資金を活用しながら、できればより良いものを県民の納得のいくような、そういった活用になっていくのではないかと考えております。

## 委員

1点目の事業主体でございますが、おそらくこの検討会のスタートが事業主体のあり方をやはり見据えているところがあると思います。ある程度、県なり自治体が主体とし

て事業という場合であれば引っ張らざるを得ないのかなと思います。ただ、コンセプトにも通じますし、運営手法にも通じますが、これまでの公共施設が場所貸しだというイメージだとすれば、もう少し広いコンセプトで話し合っていますので、やはり民間の方も関わるという視点が絶対外せないのかなと思います。

2点目以降の財源ということでお話しさせていただければ、そういう意味では当然国の助成とか補助を取れるメニューをいろいろ調べなければいけないでしょうし、関係自治体の負担というのもあるかと思えます。それに加えてこういう機運でございますので、県民市民の寄付であるとか、やはりブラウブリッツ秋田さんも含め民間の企業の方の出資とか、補助や寄付というようなものも視野に入れながら幅広く取り組んでいくべきかなと思っております。

#### 委員

事業主体については、本当は民間でやってもらいたいという気持ちがあるんですが、ちょっと無理なのかなという気がします。国庫補助とか助成金とかの関係はいろんなものがあると思えますので、ありとあらゆるものを使いながら、やってもらえればありがたいのかなという気がしております。

#### 委員

事業主体に関しては、今秋田市の方が言ったとおりで、私も秋田市民なので協力したいと思えます。できた場合の使用について、委員さんのところを優先にしないと、グラウンドを分捕り合戦になってしまえば、スケジュール的に困るところがあると思うから、それはやっぱりブラウブリッツが優先、いろいろ公式戦とかがあると思うが、優先権は与えないとスタジアムを造った意味がないので、その空いたところをいくりにしていくか、開放していくかを明記しておかないと、必ず公営だから私たちも使う権利があると考えも出てきて、グラウンド会議で大変なことになるので、それは最初からこの会場はブラウブリッツの本拠地ですと謳った方が良いと思う。

財源については、委員が言ったとおり、できるだけ広く持ちかければ、どれくらい集まるかは分からないが賛同は得られると思えますので、そういう集め方も検討すべきだと思います。

#### 委員

事業主体は秋田県であるべきかと思えます。所有は秋田県と。県立球技場ということになるとネーミングライツは別ですけれども、お金を出して民間がやるというのは何か変なこと、これは運営主体と何か勘違いしているのかなと。運営主体は株式会社の民間でやるべきだと。ブラウブリッツさんでやってもらえれば一番良いんですけども、ちょ

っと難しい。難しいのは、チームを向上させるのに今全力を挙げていますから、経営まではちょっとお願いするのは難しいのではないかと、別の会社を興すか、どこかで経営してもらおうと。責任がはっきりしていると。国庫補助等々は全部使ったら良いと思います。

## 委員

今、委員がおっしゃられたとおり、事業主体と運営主体というところで、明確にした方が良くと思いますけれども、理想というか、可能性を探るのであれば是非民間でもいいのかなと思うんですが、お金に関しては皆さんでということですけども、明確に申し上げておきたいのですが、後援会でありますので、できるだけ我々も自らの企業を含め、後援会がお金を募って、東大寺の奈良の大仏さんが市民の力で造ったということがあり、皆さんが携わって、できれば工夫として、余談になりますが、タイルに寄付した方の名前を載せてとか、そういう事例をつくるとか、広島カープの球場のようとか、そういうことで少しでも多くの方が携わって、1円でも、また、物資でも、携われる形が良いと思います。

財源に関しては使えるものは全て使うと。ただし、言っている以上、後援会としては我々も自ら動く、あるいは、お金を出すということの姿勢であることを明確に申し述べておきたいと思います。

## 委員

事業主体については、やはり私は秋田の歴史ですとそういった部分から考えても、今こそみんなが力を合わせてこれをやるべきじゃないのかなと思っています。どこがではなく、どこが主体といった部分で、応分の中心になるといったところはやはり県でやっていただきたい。

中でも、県・市、そして全市町村にも間違いなくこれはいろんなシャワー効果等々がきますので、秋田県が全部一体となって、そして今こそ官民が一体となる上で、もう一つ大事なのは、個人に関しましても大なり小なりと、金額の多さではないと思います。たくさんの方々がこのスタジアム建設に携わること。1円でも10円でも100円でも1,000円でも募っていくということを、我々も実際既に考えておりますので、そういった形が良いのではないのかなと。

国庫補助、助成については、委員からありましたように、取れるものとはとにかく取っていくと、防災の観点からすれば総務省関連で、フクダアリーナも確か18億くらい防災関連で取っているので、そういった観点からも非常に取りやすい部分もあるのかなと。ちなみにtotoを皆さんの中で気にされている方がたくさんいらっしゃると思うんですが、totoはどうしても2020年の五輪に、それ相当に負担がいつていますので、なかなかその部分に関しては難しいです。今までは、実は2年分で30億のスタジア

ムの新設に対する t o t o 助成というものがありました。現に北九州のスタジアムであったり、吹田スタジアムであったり、それを獲得しているわけですが、その予定は今後難しいのかなと思いますので、t o t o はあまり気にしないでいった方がいいんじゃないかなと思います。

この募金寄付団体、寄付金といった部分は、たとえば吹田スタジアムであれば144億円、まあ140億円が寄付で集められました。法人でいうと100億円、個人でいうと6億円というような金額ですけれども、これもちょうと裏がありまして、経団連の元会長や現会長だとか、大企業の大物が説得をされて、えいやっということ企業に対し負担してくださいという事で、これぐらいの金額が集まっております。

秋田の経済事情ですとか、規模を考えたときに、ここまではいかないにせよ、ある由利本荘市在住の方が言ってらっしゃったのは、民間で15億集めてやると言っていたことがあったりもしますので、大なり小なりといった部分では、やはり一番最初に申し上げたとおり、みんなが携わる、みんなで作るスタジアムというものが一番ベストなのではないのかなと思っています。まさにここで委員が我々の優先権の話をしてくれるのは夢にも思わなかったもので、いつもグラウンド会議では大変大変お世話になっております。

## 委員

運営主体の方は、できたら民間の新しい経営感覚でお願いしたいと思います。補助の件に関しては、秋田県を中心とした行政の方々からお力をお借りしたいと思います。

先程来、名前は出ておりませんが、もしできたら、建築・設計・事業主体を秋田県の業者からやっていただきたい。それによっていろんな面での願いやお手伝いをしてもらおうと。そういうことを是非お願いしたいと思います。いろいろ建築関係の仲間がいますけれども、非常に厳しい状況だと聞いております。是非、こういう大きな建築・設計のものを、秋田県の業者を使っていたきたい。

## 委員長

ありがとうございます。委員、私ちょっと理解できなかったというか、委員のお話で株式会社化のような話があったんですが、今の行政が事業主体になるとか、事業主体と考えた場合は、やはり民間が難しく、行政なんじゃないかという意見があったんですが、そこをもう一度お願いします。

## 委員

ランニングコストをどうやるのか、イニシャルコストで建設事業をどうするかという話で、理想を言えば民間SPCをつくって、土地50年無償貸与みたいな感じで行政に出すために、民間がどんどん乗っていくのが、造る分も民間でやっていくのがいいんじ

やないかなと、今筑波大学がそうやってやろうとしているのですが、まあ秋田の経済事情等があると思いますので、その部分ができないのであれば、やっぱり建設事業というところに関しては県がやるけれども、それを運営するのは「外出し」しますよと、運営と切り分ける手はあると思います。経済事情が分からないものですから。理想をいえば民間、全部がいいのじゃないかなということですが。

## 委員長

ありがとうございました。皆さんからご意見をいただいて、ちょっとおもしろいなと私思ったのは、民間の出身の方が民間でと言って、行政出身の方が行政でと言っているところが、非常に、現実路線、現実論なのかなという気がしないわけではなかったのですが、大体今のお話ですと、経済事情は横に置いておくと、建物を建てる部分に関しては、それは当然募金、補助金等々、寄付金等々をいただくにしても、県もしくは関係市町村、あるいは全市町村が主体となって建てるんだらうというのが皆さんの意見の集約になるのかなと思っています。

運営に関しては、できればやはり民間が民間の知恵を絞ってやられた方が、先ほど優先使用の問題もありましたけれども、やはり公の機関になってしまうと優先使用というのはかなり難しくなるということもあるでしょうから、できればそういうものは民間の株式会社なんかでやっていかれたらどうかというのが、意見としては大きかったのかなと思います。

それと繰り返しになりますけれども、県の財源だけに頼むんじゃないで、やはり我々県民の一人一人が寄付・募金、あるいは企業に回って歩く。そういうふうなことで、募って行って建設費を捻出していくという財源の集め方が一番重要なんじゃないかというのが、皆さんのご意見だったのかなと思います。それで、一応今日、2番はやったんですけども、よろしいですか3番目に入っても。時間的に12時を回るかもしれないですけども、事務局としてはとりあえずここで一旦止めるという方法もあると思うんですが。

## 委員

どれくらい土地が必要なの。田んぼで言えば何枚。事務局では分かるの。

## 委員長

今、どれくらい面積が必要かという話も、多分、委員の話はスタジアムというか、フィールドプラスだと思うんですが、その付加機能の話になってくると、必ずしも今のフィールド面積だけでは収まらないというか、いわゆるサッカースタジアムとか、ラグビースタジアムという部分で収まりきれない話がありますので、大きさ的にはなかなか何ヘクタールだとかという話は難しいのかなと思います。

## 委員

それでは出てこないのではないか。

## 委員長

そういうことも踏まえて、3番目の建設場所に入る時に、時間の話と今言った前提となる条件、大体ある程度幅を持たせてもらったものを改めて、各委員の方に今回の議事録とかまとめたものをお渡しする段階で、参考になるようなものをデータとしてもらえれば、次進みやすいのかと思うんですが。いかがでしょうか。

## 事務局

今のことと併せまして、先ほどの話の中で、ドーム型にした場合の予算のことなども話題として出されておりました。1万人規模でドームにした場合としない場合、また、開閉型にした場合はとどうなのかといったことなどについて、これまでの先行事例もありますので、金額的なものも含めて、今の面積のことと併せて、第3回目の検討委員会の時に少しでも参考になるような資料を送付させていただきたいと思っております。

なお、建設場所については、この次の検討委員会に委ねたいと思いますのでよろしくをお願いします。

## 委員長

ありがとうございます。いずれ財源、助成に関しては不案内という委員もいらっしゃいますので、この辺の情報提供に関しては今後の検討委員会に非常に資する話かと思えますので、引き続き今のような部分と一緒に出していただければと思います。

## 委員

行政が主体となることはほぼ確実に見えるんですけど、報告書的にもし答申で書くのであれば、秋田にお金を出したいという人が居るかもしれないし、世界に居るかもしれないので、民間の可能性も探るぐらい入れておいていただけると、マーケットサウディングしたら出るかもしれないので、中国人が500億出すみたいな事があるかも知れないので、ただそうなった時に、先ほど熊谷委員が言ったように秋田の業者でといった話でなくなるかもしれない、グローバル経済の中で動いてしまうので、ただ秋田でやるという気持ちで僕も賛成なんですけど、可能性は取らないでちょっとした注書きでもいいので入れておくと良いと思います。

## 委員長

そこに関しては当然できればそちらの方が、可能性を決して否定するものでは事業主体としてもないと思いますので、そこは十分考慮して前に進んでいきたいと思います。

#### 委員長

ちょっと時間が中途半端で、予定していた時間よりも30分早く終わるんですけども、先ほど言ったように建設場所に関しての大体の面積であるとか、話に移るための費用だということに関して、もう少し事前情報が欲しいということだと思いますので、本日は2番までで終了という形にさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

#### 全委員

異議なし

#### 委員長

本日は、1回目の検討委員会のまとめと事前調査票のご意見を踏まえたうえで、コンセプトを検討いただきました。コンセプトについては、ご意見はあるにしても、概ねこのような方向性ということでご承認をいただいたと理解しております。

また、機能や事業主体・財源に関しては、先ほど私が簡単に言葉でまとめさせていただきましたけれども、若干抜けているところもあるかも知れません。そこに関しては、事務局に整理していただいて、また、場合によっては、先ほど委員がおっしゃっていましたけれども民間100%の場合に、国庫補助とかという話が、あるや、なしやという話もありますので、そのような法的な部分も含めた部分を事務局で整理してもらって、必要な部分は調査していただくということをお願いしたいと思います。

長時間にわたり、活発にご議論いただきありがとうございました。本日、審議いただく案件は終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

#### 事務局

長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。ご議論いただいた案件については、委員長からもありましたように解決しなければならないものがありますし、次回の検討会までに情報提供させていただくものもありますので、更に事務局の方で課題を整理し、必要な調査を進めてまいりたいと考えております。資料の10ページに記載の、第3回目の検討委員会ですが、9月議会終了後を予定しているため、11月上旬の開催を予定しておりますので、おって、また皆様にご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

3回目では、本日までのまとめと、引き続き、課題についてご議論をお願いしたいと考えております。委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、今後も課題整理や必



要な調査を継続してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。これをもちまして、第2回スタジアム整備のあり方検討委員会を終了します。ありがとうございました。

以上